

◆声かけ（補導）活動

福山市青少年センターでは、福山駅をはじめ市内各駅での朝の声かけ活動のほか、市内の学校周辺や公園、商業施設、ゲームセンターなど、子どもたちが集まりそうな場所へ出向き、声かけ活動を行っています。



子どもたちの多くは、朝の通学途中に知らない大人から突然声をかけられるため戸惑いますが、それでも「寝坊した」「体調が悪くて家を出るのが遅れた」など理由を話してくれる子がほとんどです。コロナ禍においても、声をかけた子どもたちの反応は以前と変わらず素直に答えてくれますが、「コロナが増えていて怖い」などの声もあり、不安な気持ちを抱えているように感じます。

◆2020年度 補導状況

昨年度は合計467人の子どもたちを補導しました。学校が休校になっていた4～5月においては、道路や公園など禁止区域での自転車の曲乗りやスケートボードでの補導が多くありました。

例年2学期となる9～11月が遅刻や怠学での補導が増えますが、昨年度は休校明けの6～7月にかけても補導件数が増えています。

青少年センターでは、子どもたちが少しでも前向きな気持ちで学校に行けるように、これからも

「いってらっしゃい」

「気をつけて」と

声をかけていきます。



年度	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2020年		98	83	45	35	10	18	59	50	18	20	16	15	467
喫煙						1			-	2		1	5	9
怠学				2	8	2	3	10			4	2		31
遅刻				33	25	7	15	41	46	16	12	11	6	212
飲酒														0
家出														0
自転車		6	9	1										16
スケートボード		92	66	4				4			4	2	2	174
その他			8	5	2			4	4				2	25

指導員の窓

指導員として初の巡回中、ある公園に「立入禁止」の場所で遊ぶ数人の小学生がいた。「そこは遊んではいけない場所だよ」と注意すると、「すいません」と素直にその場所から出てきた。「ちょっとここに物を落としたから拾っていた」と、こちらまで聞こえる様な声で独り言を言いながら。さっきまでとても楽しそうに追いかけてこをして遊んでいたのに。

コロナ禍の生活で、一層「合い」が減っていることが気になっていた。

「話し合い」「協力し合い」「声の掛け合い」など。マスクを外すことなく、人と話す事で相手の表情を読み取るのが難しい。長時間たくさんの人が室内に集まり話しかけることが難しい。子どもたちには、声をしっかりかけて心配している気持ちを伝えたい。

大切に思っている気持ちを伝えたい。子どもたちを取り巻く大人が、子どもたちに声を掛け合いたい。

立入禁止場所で遊ぶ小学生にも、禁止場所でスケートボードをする中高生にも、しっかり声を掛けていきたい。指導員は、大人の先頭に立って子どもたちに声を掛けることが役割だと思っている。

「声の掛け合い」によって、子どもたちに「愛」を届けていきたい。

どうぞよろしくお願いいたします。（戸羽）



中央青少年育成員のコーナー



私が育成員（当時は補導員）になった時代、仕事が駅前にある商店街ということもあり、通学する子どもたちに毎日出会っていました。購入したタバコにライターで火をつけ、高校生が堂々と闊歩する姿に毎日のように遭遇し、補導員として関わりを持たせてもらいました。

（裏面へつづく→）

当時、駅前周辺では、暴走族の徘徊・金銭のカツアゲ・不純交友等。地域においては、青少年によるタバコ・シンナー・窃盗・家出・テレクラ・不審者問題等もありました。

「東・桜丘・西深津学区」青少年育成員協議会（当時の補導員協議会）では、学区間で連携する中で、これらの問題解決に向けて取り組みました。また、不審者への対策として、福山市でいち早く「こども110番の家」を立ち上げました。



あれから社会環境も大きく変わり、非行・犯罪も減少傾向にあり、子どもたちの安心・安全に大きく寄与できたものと思います。

一方近年では、いじめ問題をはじめ、SNSによる犯罪が社会問題となっています。また、昨年からのコロナの影響による休校から不登校へつながる等の状況もあるように聞いています。コロナ禍で私たち育成員の活動も限られたものとなっています。

社会全体が疲弊している今こそ、育成員として原点に帰り子どもたちの「目線に立ち」「寄り添い」「認める」「傾聴」そして「あなたは必要とされている」「けっして一人じゃない」愛情をもって接していれば信頼関係もでき、閉ざした心も必ず開いてくれるものと確信しています。

昔、補導員として関わった子どもたちから「おっちゃん、一杯飲もうやあ」と時々電話が架かり、「いいよ」と応えています。その子たちにも子どもが生まれ、いいお父さん、お母さんになっています。酒を飲み交わし会話は弾み、心の中でひとり「育成員（補導員）をされていてよかった」と強く感じています。コロナが終息したら、私の方から酒に誘ってまた昔話に花を咲かせたいものです。（西深津 田中）



◆第56回福山市青少年育成市民運動推進大会

7月は「青少年の非行・被害防止全国強調月間」、「社会を明るくする運動」強調月間、「再犯防止啓発月間」でした。

7月17日（土）の推進大会では、福山平成大学福祉健康学部福祉学科准教授の荻野太司（おぎのひろし）先生から、「福山から考える青少年の健全育成」と題し、ご講演いただきました。

破れ窓理論など、非行や犯罪をさせない環境づくりや、近年、刑法犯検挙人員のうち、再犯者の割合が増えていること、非行や犯罪をした人の中には病気や障害などの生きづらさや困難を抱える人も多いことから、福祉などにつなぐ更生支援の在り方についてなど学びました。犯罪が起こる機会を減らすまちづくりと、立ち直りを支える地域の力について理解を深めることができました。

◆子供・若者育成支援推進強調月間

内閣府は、子供・若者育成支援推進大綱において、毎年11月を「子供・若者育成支援推進強調月間」として設定し、子供・若者育成支援に関する取組を国民運動として総合的に展開する契機としています。

「どこにも居場所がない」とする子供・若者の割合



福山市においても、街頭啓発活動や研修会等を実施し、家庭・学校・地域と協力しながら子供・若者の健やかな育成をサポートしていきます。

◆◆編集後記◆◆ 青少年センター所長より

4月の異動により青少年センター所長に着任しました宮沢です。他に次長と新採用職員、指導員2名の異動があり、新しい顔ぶれで、新鮮な気持ちで業務を行っています。青少年センターでは、すべての子どもたちが安心して過ごすことができるよう、しっかり子どもたちと向かい合っていきたいと思います。

引き続き地域の皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。（宮沢）



発行者 福山市青少年センター（青少年・女性活躍推進課内）〒720-0831 福山市草戸町五丁目12番3号
電話 084-928-1046 Fax 084-927-9121 seishounen-josei@city.fukuyama.hiroshima.jp